

幼稚園教育実習事前事後指導

概要

教育実習の意義を理解し、心構えを養うと共に、自己課題を明確にしたうえで教育実習を行う。教育実習後は、新たな課題を基に今後の取り組みを整理できるようにする。さらに、教育実習に必要な保育の知識、技術を学び、実践できる力を身に付ける。

担当教員	長谷川美香・堺秋彦
授業形態	演習
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1、2年
時間数	90分×15回
単位数	1

目標

2年間で2回行う教育実習を念頭に、教員の役割や職業倫理、保育の観察、記録、計画についてなど、実習の事前指導と事後指導を行う。

各回の内容

1. 教育実習の意義、目的
2. 実習生としての態度、心構え
3. 保育現場の現状と保育者の役割
4. 観察、参加実習の意義、目的
5. 幼児理解の視点と適切な支援
6. 日誌を記録する意味とその重要性
7. 日誌の書き方
8. 教材の吟味と環境構成の在り方
9. 部分、責任実習の意義、目的
10. 指導計画の重要性とその作成
11. 指導案の作成
12. 実習への課題の確認
13. 実習体験の共有化と発表
14. 評価に基づく個別指導
15. 自己課題への今後の取り組みの整理

準備学習（予習・復習等）

日誌や指導案作成、教材研究など、教育実習で必要と思われる準備を、授業時間外においても各自進めること。「幼稚園教育実習の手引き」をよく読み、普段の生活でも、場、相手に合った挨拶や話し方、服装などを意識し、実践するようにすること。子ども理解を深めるため、学内の「親と子の広場」に積極的に参加することを望む。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

各回の振り返り30%、課題及びレポート50%、提出物20%

教科書

「幼稚園教育実習の手引き」（本学作成のもの）、「幼稚園教育要領解説」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」（小櫃智子ら編著、わかば社）、「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」（小櫃智子ら編著、わかば社）

参考文献

適宜、授業の中で紹介する。

幼稚園教育実習

概要

本実習は、2年間の実習の最初の段階として位置づけられる。現場における保育の実際を観察し、保育に参加することによって、幼稚園生活の1日の流れを知る、一人ひとりの子どもの発達や、クラス集団としての子どもを理解する、幼稚園教諭の職務内容や役割を把握するなどの内容を、体験的に学ぶ。

担当教員	長谷川・坂本・狩野・絹川・堺・奥田
授業形態	実習下・齋藤
学期	1年後期
必修・選択の別	必修
対象学生	こども保育コース1年
時間数	5日間
単位数	1

目標

観察実習

- 1・幼稚園の物的・人的環境について把握する。
- 2・1日の保育の流れを知る。
- 3・幼稚園教諭の役割や、仕事を理解する。
- 4・子どもの園生活の実態を知る。

参加実習

- 1・1日の保育の流れ、幼稚園教諭の職務内容を具体的に体験する。
- 2・子どもとの積極的な遊びやかかわりあいを通し、幼児の実態に触れて理解する。

各回の内容

1. 園の設備、教員組織、環境構成及びクラス構成を知る。
2. 子どもと関わりながら、園の1日の流れを把握する。
3. 各場面における保育者の子どもとの関わり方や、援助の仕方を知る。
4. 実習担当教諭の指示、指導に従い、保育に参加しながら、幼稚園教諭の役割を学ぶ。
5. 園児の生活実態や、幼稚園教育の基本を理解する。
6. 子どもの名前を覚え、積極的に関わり、ありのまま子どもの姿を知る。
7. 一人ひとりの発達を踏まえ、健康・安全のための環境・整備の実際を学ぶ。
8. 基本的な生活習慣や、社会的習慣の指導について、幼稚園教諭としての態度や技術を習得する。
9. クラス集団としての、子どもを理解する。
10. 家庭・地域社会と幼稚園との関わりについて知る。
11. 5日間、上記のような内容で教育実習を行う。詳細は、実習園によって異なる。

準備学習（予習・復習等）

今まで履修した授業の内容や資料等を振り返り、観察の視点を明確にもつ。実習の意義、目的、内容をしっかりと理解しておくこと。また、健康管理に留意し、体調を整えておく。実習日誌の書き方などについて、授業外においても自主的に学ぶ。事前のオリエンテーションで指導担当教諭から指示があった場合は、その準備も行うこと。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

実習先の評価70%、実習日誌の内容や実習中の様子等30%

教科書

- 1・「幼稚園教育実習の手引き」、本学作成のもの
- 2・「幼稚園教育要領解説」、文部科学省、フレーベル館

参考文献

特になし